

人生には歌がある

鹿児島市医師会臨床検査センター参与 | 東 耕治

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

さて、今から50年前大学遊学のためブルートレイン「特急はやぶさ」で東京駅に降り立った私。早速駅近くの喫茶店に友人と入りました。ウェイトレス「ご注文は？」私「ホットコーヒー」友人「オイモ(俺も)」。ウェイトレス「当店にお芋はありません」。笑劇の東京デビューでした。

「俺ら東京さ行くだ」(吉幾三)の軽い気持ちで「大都会」(クリスタルキング)「東京」(マイペース)の住人となりました。学生時代は、渋谷の和風料理店で4年間アルバイトをしました。NHKに近いせいもあり、著名な芸能人も通ってくるお店でした。就業中最もショッキングな出来事は、当時清純派女優として人気の高かったS井W歌子さんが、店内の個室に入ると煙草をスパスパとふかした光景を目にした時です。田舎育ちの青年には、にわかには信じがたい光景でした。虚像ってこうやって作られていくのかと思うと、恐ろしくなりました。

大学・社会人の6年間「私鉄沿線」(野口五郎)に住み、大学卒業後は「池上線」(西島三重子)で仕事場に通り、アフターは渋谷で「乾杯」(長渕剛)。酔いのままに「今夜このまま」(あいみょん)「夢の中へ」(井上陽水)。24歳で故郷鹿児島にUターン。26歳で生涯の伴侶とめぐり逢い「嫁に来ないか」(新沼謙治)とプロポーズ、周りから「結婚するって本当ですか」(ダ・カーポ)と祝福されながら結婚、それから42年。女房には「ありがとう…感謝」(小金沢昇司)。そしてこれからも「よろしく哀愁」(郷ひろみ)。

「時の過ぎゆくままに」(沢田研二)、秋の訪れを感じる季節に無性に聴いてみたい楽曲

があります。「夏の終わりのハーモニー」(井上陽水・安全地帯)。いつまでも夢、憧れを忘れずに生きていきたい切なる願いです。9月の長雨にドンピシャの曲が「九月の雨」(太田裕美)。九月の雨は冷たくて優しい、雨は心を映しだす鏡でしょうか。

9月23日は「秋分の日」、そして忘れちゃいけない「テニスの日」。テニスの応援歌といえば「恋する夏の日」(天地真理)。あなたを待つテニスコート、あなたと走るテニスコート。青春真っ只中、ああ「あの日にかえりたい」(ユーミン)。

ある運転中にラジオから流れてきた音楽のリクエスト番組、リスナーのラジオネームにびっくり仰天。「聖母たちのララバイ」(岩崎宏美)ならぬ「聖母たちのハラバイ(腹這い)」参りました。

「歌は世につれ世は歌につれ」と申しますが、日々の生活の中で歌に元気づけられることは少なからずあります。私の最大の応援歌は「明日はきっといい日になる」(高橋優)

一方、医師会に入って間もない頃、先輩と昼休みを利用して近くのトヨペットに新車を見に出かけました。先輩が大声で「東、このシイノスという車かっこいいな」と。車には「CYNOS」と表記があり、スタッフに確認すると「サイノス」という名称でした。「シイノス」は、「肛門」を表わす鹿児島の方言です。私達はその後このお店には立ち寄ることができなかったのは言うまでもありません。「青春時代」(森田公一とトップギャラン)のとても恥ずかしい思い出です。

いろいろ思いはありますが、今回は「ここでよかろうかい」皆様「また逢う日まで」(尾崎紀世彦)。